

岐阜市柳ヶ瀬の再生計画—商店街と大学の融合—

Revival plan of Yanagase gifu city
—Fusion of shopping street and University—



岐阜大学 地域環境デザイン研究室 岩本一将 宮地翔 大井晴奈 大野峻 富田敬之 川口直秀 長谷川真穂

衰退する地方都市

大学の教室を、市街地の空き家へ

近年、少子高齢化がますます進み、超高齢社会が進展している。総務省の統計資料によれば、人口が減少している一方、世帯数や総住宅数は年々増加傾向にある。それに伴い空き家の軒数も増加し、2010(平成20)年には全国の空き家率が13.1%、空き家軒数は756万戸まで上昇している(6年ごとに調査実施)。全国の地方自治体では、空き家を活用できる「空き家バンク」のしくみが広まりつつあるものの、シャッター商店街や空き家が散在する広域的な区域に対する戦略が課題である。

柳ヶ瀬地区は、昭和期に繁華街として栄えたものの、現在はシャッター商店街となっており、空き家問題は重点を置くべき問題である。一方、郊外に立地する岐阜大学は、昨年「地域貢献の場」として駅前サテライトキャンパスを設けている。そこで、柳ヶ瀬に散らばる空き家を大学の教室として利用し、新たに柳ヶ瀬キャンパスを設けることを提案する。

柳ヶ瀬地区に教室を設けることで、街としては持続的に若者が柳ヶ瀬地区に流入し、消費活動が活発になる。大学側としては、学生が街中で学ぶことによって、地域に根差した学びを得られる。地方の中心市街地と地方大学を融合させることによって、地方のシャッター商店街や空き家問題の対策事例となることが期待できる。



柳ヶ瀬シャッター商店街部分

柳ヶ瀬の歴史性

岐阜市の求心力であった柳ヶ瀬

柳ヶ瀬通りの誕生

明治21年頃、市制施行によって岐阜市が成立するのに先立ち、市区改正事業により柳ヶ瀬通りが建設される。翌年、市制施行によって岐阜市が成立している。

岐阜市の中心へ

明治末期以降、順次建設された電気軌道によって、都市間を繋ぐ交通網が柳ヶ瀬を中心として形成される。また、都市計画も柳ヶ瀬を中心として計画されている。柳ヶ瀬の道路舗装とスラン灯的設置が行われ、人気はより高まっていた。

戦後に訪れる柳ヶ瀬の最盛期

空襲によって焼野原となった柳ヶ瀬に、劇場が再び建設される。新たに、街路網の整備やアーケードなど建設される。柳ヶ瀬を訪れた人々で、路面が見えないほどの人気を博し、最盛期を迎える。

シャッター商店街と化す

不況による大型商店の閉店や、郊外の開発に伴って、柳ヶ瀬を訪れる人が大きく減少していく。柳ヶ瀬は、岐阜市へ人々を呼び込む求心力を失ってしまい、現在は、閉店した商店が並ぶシャッター商店街となってしまった。

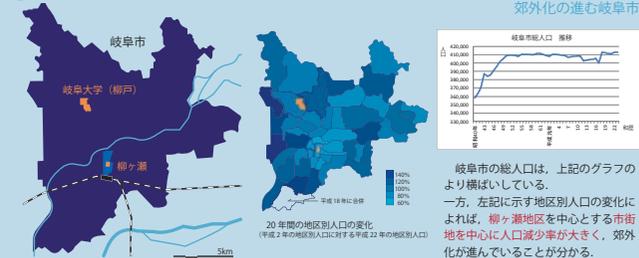
岐阜市の中心であるべき柳ヶ瀬

柳ヶ瀬は岐阜市の中心として発展し、その当時の記憶は、現在でも岐阜市民の中で生きている。従って、柳ヶ瀬に再び求心力を与えることで、岐阜市の市街地は、活気を取り戻すことができる。そのため、本提案において柳ヶ瀬に着目した施策を打ち出した。



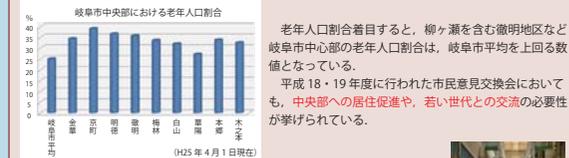
対象地域の概要

郊外化の進む岐阜市



柳ヶ瀬の現状と課題

シャッターと超高齢社会の柳ヶ瀬



不足している駐車場

平成18年度に実施された市民意識アンケートでは、「日常生活に不十分・困っているもの」として、「駐車場・駐輪場」の割合が岐阜市中央部において最も高い。

柳ヶ瀬においても、至る所で自転車路上駐車を発見することができるとは。したがって、この自転車駐輪場の対応策を講じる必要がある。

増加した空き家

柳ヶ瀬商店街の象徴であるアーケードは、沿道の住民及び商店店舗出店者らによって維持管理が行われている。しかしながら、商店街内の空き家増加に伴って、アーケードの維持管理を行う人の絶対数が減少し、急な修繕・補修の対応が難しい状況も存在している。



現状の柳ヶ瀬の路上駐輪

岐阜大学の現状と課題

岐阜大学生は、大学と駅の往復のみ



昭和50年代、郊外に移転・統合

昭和50年代、分散していた岐阜大学のキャンパスは、郊外に移転・統合された。広い敷地には、農場や大学病院、工学実験棟を含む多くの研究施設が立地しており、豊かな自然環境の中で研究・学習をすることができる。

昨年(2012年)、駅前にサテライトキャンパスを設置

昨年より新たな学びの場として、「地域貢献の場」を目的としたサテライトキャンパスが岐阜駅前開設された。サテライトキャンパスは、他大学の学生や地域の住民の受講が可能である。一方、サテライトキャンパスは駅から直通のペDESTリアンデッキで行くことができるため、学生は駅と駅前のキャンパスを行き来するだけで、柳ヶ瀬を含む市街地に足を運ぶ機会には非常に少ない。つまり、郊外の大学から駅前のサテライトキャンパスに授業を行う場が移されても、学生の肉体的な行動は変化しておらず、キャンパスは街から閉ざされた空間となっている。

商店街と大学の融合

教科科目の授業を、柳ヶ瀬の空き家へ

本提案の主なメニュー

- 1 岐阜大学の教室・演習室・ミーティングルームを市街地の建築物の中へ、部屋単位で移設する(賃貸契約とする)。
- 2 柳ヶ瀬内に、岐阜大学の講義棟を2棟所有し、学務などの運営拠点を配置する。
- 3 学生の居場所(市民の居場所でもある)を積極的に確保するため、市街地の内部に小規模な緑地・スクエアを設置する。
- 4 アーケードの街路網は現状を維持し、車両・自動車の交通を規制する。歩行者の経路を確保してスムーズな移動を可能とする。
- 5 柳戸・柳ヶ瀬の両キャンパス間を、大学運営の無料シャトルバスによって繋ぐ。
- 6 柳戸キャンパスの空いた教室棟や実験棟へ、地元民間企業の研究部門を誘致する(賃貸契約とする)。産官共同研究を促し、一層質の高い研究成果を創出する。
- 7 柳ヶ瀬を含めた周辺地域における、空き家情報を整理・発信し、下宿や商業店舗の移転を促す。



柳ヶ瀬キャンパス全体像

市街地の求心力となるモノとしての岐阜大学

大学の一部移転により、柳ヶ瀬に学生が定着し、市街地における持続的な消費活動を見込むことができる。岐阜大学は、市街地を教育現場として、地域に根差した理想の「教育研究の場」を得ることができる。市街地に創出された新たな交流の場によって、学生と地域住民とのコミュニティが形成され、内発的なまちづくりが期待できる。活気を取り戻した柳ヶ瀬は、人々が再び魅力を感じる空間へと変化する。

柳戸・柳ヶ瀬キャンパスの役割

- 柳ヶ瀬キャンパス
- ・原則1・2年生を対象
 - ・一部運動場や専門施設などを必要とする授業は、柳戸で行う。
 - ・柳ヶ瀬キャンパスで学ぶことで、市街地に学生が滞留し、新たに社会との交流が生まれる。
- 柳戸キャンパス
- ・大学院生を含めた学部3年生以上を対象
 - ・柳戸キャンパスは、豊かな自然環境の中で広大な敷地を持つため、研究施設が充実しており、優れた研究環境で学ぶことができる。
 - ・それに加え、岐阜大学付風病院の北に、新たに東海環状自動車道のインターチェンジが建設される予定であり、交通面の利便性が大幅に向上する。

既存施設を利用するメリット

- 柳ヶ瀬キャンパスの移転は、原則として既存施設を利用する。
- ・空き部屋へ大学の教室等が埋め込まれるため、実現化へ至る準備期間が短い。
 - ・新たに施設を建設する場合と比べて、コスト面の支出が小さい。
 - ・立ち退きの心配がなく、地元住民の賛同を得やすい。
 - ・空き部屋は、学生の下宿先としても利用可能。



柳戸キャンパス全体図

柳ヶ瀬キャンパスの空間整備

開放的で居心地の良い空間整備

- 柳ヶ瀬内に新たに**スクエア（公園）**を建設し、緑のネットワークを形成する。
- 3つのスクエア及び金公園は、視覚的に連続性を持つように整備する。
- スクエア及びエントランス施設の建設・維持は、市が行うものとする。
- エントランス施設の1階から7階はテナントが入り、8階には大学施設が入る。
- スクエアを取り囲み飲食店は、可能な限り広場への眺望を広げるよう改修する。
- 柳ヶ瀬内を繋ぐアーケードは、同時に**キャンパスを繋ぐ回廊**となる。

模型は1:200で作成。
スクエア以外の部分は、敷地予定の
フロアを示す。



①柳ヶ瀬キャンパスのエントランス

大学の施設が展開していることを**象徴的に示す施設**を、空間的に創造する。1階から3階までを吹き抜けに設計し、名鉄岐阜駅から通学する大学生の主要アクセスとなる。



②エントランス裏のスクエア

柳ヶ瀬キャンパスの象徴であるエントランス施設裏手に位置するスクエア。全般的に日陰となるため、芝生以外の舗装を施す。カフェテラスや噴水を設置し、噴水では子供が遊ぶことができる設計をする。

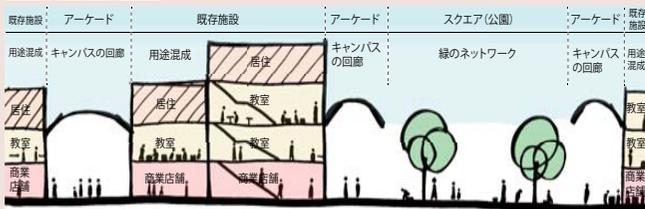


③キャンパス中央のスクエア
柳ヶ瀬キャンパスの中央に位置し、公園として整備されるスクエア。**市街地及び大学の中心**であることから、住民・社会人・学生の交流の場として利用される。南端に位置する水路（アクアージュ）まで掘り下げ、親水性を高める工夫を施す。



④キャンパス南西のスクエア

JR岐阜駅と柳ヶ瀬をつなぐ動線上に整備するスクエア。キャンパス南に位置する金公園から中央部へとつながる緑のネットワークとしての役割を担っている。



各主体のメリット

すべての主体にとって有益なもの

柳ヶ瀬のメリット

- 柳ヶ瀬キャンパスで学ぶことで、**地域に必要とされる教育**を施すことができる。
- 学生は、キャンパスにおける滞留時間が増加し、**社会及び学生間の交流**を築くことができる。
- 民間企業に必要とされている研究部門を知り、社会に活用できる研究教育を行うことができる。

柳戸キャンパス

- 産学連携の研究を行うことで、一層質の高い研究に従事することができる。
- 柳戸の学生及び研究者は、キャンパスを移転することで、**広大で自然豊かな研究環境**を確保できる。
- 朝の柳戸キャンパスにおける、極度の交通渋滞を緩和できる。

柳ヶ瀬のメリット

- 大学生が柳ヶ瀬内に定着することで、**持続的な消費活動**を見込むことができる。
- 賃貸や商業の収入が増加し、行き届いていないアーケードや路面の維持修繕費を行うことができる。
- 統制された商店街の情報を発信することで、空き家に対する需要と供給の不一致が発生しなくなる。

岐阜市のメリット

- 市街地において、生産人口の増加を見込むことができる。
- 中心市街地における**空き家割合を改善**させることができる。
- 自転車の路上駐車を抑制することができる。

民間企業のメリット

- 割安の賃貸料金で、大学内に研究拠点を設置することができる。
- 企業と専門研究者の交流による、**人的ネットワークを形成**できる。
- 大学が行っている、最先端の研究・技術を知ることができる。

岐阜大学生 まほちゃんの日

まほちゃん Profile

- まほちゃん
- 学部1年生
- 柳ヶ瀬の商店の2階に下宿
- サークルは、コミュニティカフェの運営

7:00 **朝**

商店街のざわめきで目が覚めた、今日も1日がはじまる！

次は授業。スマホで場所を確認。ひと目で教室の場所が分かるから、これなら迷子になりやらず私でも大丈夫！

授業は地域活性化についてなんだ。

社会人の方も参加していて、いろんな意見が出てくるからおもしろい。

12:00 **お昼休み**

休み時間はスクエアで友達と休憩。最近この時間にステキなスイーツの人がいる…。

13:00 **午後の授業**

体育だから、柳戸へと移動。無料シャトルバスで20分くらい。

17:00 **授業後**

サークルのために柳ヶ瀬に帰ってきた。コミュニティカフェを運営しているんだよ！

いろいろ勉強になるし、やりがいがあるの。

岐阜大学院生 なおくんの日

なおくん Profile

- なおくん
- 大学院生
- 大学3年生から、柳戸周辺で一人暮らし
- 研究は、民間企業の人と共同研究をしている。

7:00 **朝**

日課の朝ランニングを終え、下宿先にもどって出かけ支度。

9:00 **午前中の授業**

研究室に登校。

12:00 **お昼休み**

今やっている研究のテーマは、柳ヶ瀬キャンパスでの経験もとに「社会で必要とされているかどうか」を意識して選んだものだ。

13:00 **午後の授業**

屋ごはんを食べに食堂へ行くと、共同研究で大学へ来ていた方と相席に。

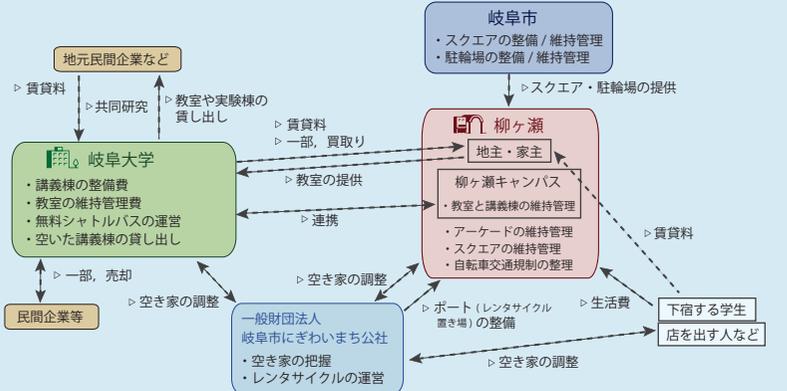
17:00 **授業後**

柳戸での用事を済ませ、後輩とごはんを食べに柳ヶ瀬へ。

大学院生になった今でも、月に何度も柳ヶ瀬に足を運んでいる。

事業運営の組織

地元の大学・都市・民間企業で連携を



岐阜大学の賃貸収入

- 民間企業に対して2100円/m²で柳戸の教室及び実験棟を貸し出すものとする（学内の施設利用費含む）。
- 柳ヶ瀬から30教室（約3200m²）を借りる。
- 民間企業へ、最大41教室（約4300m²）貸し出すものとする。
- 41教室の内、常に7割の教室が埋まっていると考え、大学は150万円/月の利益を得ることができる。

柳ヶ瀬の賃貸収入

- 柳ヶ瀬は、岐阜大学に対して1500円/m²で教室を貸し出すものとする。
- 大学側が柳ヶ瀬から30教室（約3200m²）を借りるものとする。
- 柳ヶ瀬は、1部屋につき平均4万円/月を得ることができる。

システム構成

- 電子端末の充実**
⇒ キャンパスを繋ぐ無料バスのダイヤや、授業が行われる教室までの経路、自習可能な空き教室は、タブレットなどの電子端末から確認できる。
- 空き家把握のシステム**
⇒ 柳ヶ瀬を新たな拠点としたい研究室や商業者に対して、柳ヶ瀬内の空き店舗状況を把握できるシステム
- 現状**：空き家の把握は、既に「一般財団法人岐阜市にぎわいまち公社」にて一部実施されている。従って、今後も同様に、にぎわいまち公社によって行われる。
- 柳ヶ瀬の住民の役割**
- スクエアの管理**
スクエアにおける金銭や専門技術を要する維持は、原則的に市が行う。
しかし、樹木の管理や除草作業、ゴミ投棄など考えられる駐車場地を一部売却（2億円）を行うものとする。
- 柳ヶ瀬内の交通規制**
自転車に交通規制については、柳ヶ瀬の住民が主体的に行うものとする。その内容は、違法駐輪への対応や、自転車の規制時間帯における通行の見回りである。

交通システム

無料バスの運行と柳ヶ瀬内の交通規制

岐阜大学キャンパス間無料バス

しくみ

- 学生と教員専用のバスで、**無料で利用可能**
- ダイヤは、30分に1本程度
- 柳戸キャンパスで行う授業（体育や実験）のカリキュラムを調整し、**特定の曜日のみ運行**
- 柳戸キャンパスの賃貸収入（地元民間企業への貸出）150万円/月によって運行

既存のバスとの共存

- ①既存の民間バス
 - 区間：岐阜大学⇄岐阜駅間
 - 運賃：片道310円
 - 所要時間：約25分
 - 大学関係の利用者が多い
- ②大学の無料バス（特定曜日みの運行）
 - 区間：柳戸キャンパス⇄柳ヶ瀬キャンパス間
 - 運賃：無料
 - 所要時間：約25分
 - 大学関係の利用者が多い

- ③大学の無料バス（特定曜日みの運行）
 - 区間：柳戸キャンパス⇄柳ヶ瀬キャンパス間
 - 運賃：無料
 - 所要時間：約25分
 - 大学関係の利用者が多い
- ⇒無料バスの運行によって、大学キャンパス間⇄移動問題を解消する。

柳ヶ瀬キャンパスの交通規制

しくみ

- 自転車と歩行者の分離
⇒ 通勤・通学時間の8:30～20:00は、自転車の乗り入れを禁止し、学生の増加による**通過交通を防ぐ**。
- 一角に大型の駐輪場を設ける。
- ※既存のしくみ：自動車の進入禁止
⇒ 自動車の進入は、許可証のある車両に限定

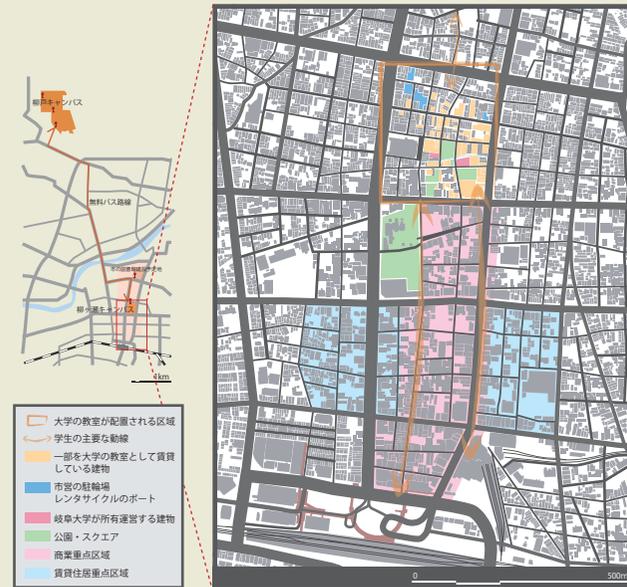
レンタサイクルのポートの設置

現状

- 1回100円で利用可能。
- JR岐阜駅南口・岐阜市役所南庁舎・岐阜公園・鶴岡観覧船乗り場・長良川うかいミュージアムにポートがあり、好きなポートで返却可能。

しくみ

- 柳ヶ瀬に新しくレンタサイクルのポート（置き場）を設置する。
- レンタサイクルの利用を促すことで、置き場に困る自転車に乗る人が減り、自転車の路上駐車の減少に繋がる。



- 大学の教室が配置される区域
- 学生の主要な動線
- 柳ヶ瀬を大学の教室として賃貸している建物
- 市営の駐輪場
- レンタサイクルのポート
- 岐阜大学が所有運営する建物
- 公園、スクエア
- 商業重点区域
- 賃貸住居重点区域